

商店建築

4

SHOTENKENCHIKU MONTHLY MAGAZINE OF STORE DESIGN / INTERIOR ARCHITECTURE 2016 Vol.61 No.04

Special Feature

現代のFAST FOOD & DINER

New Shop & Environment

LAS DOS CARAS

Feature Article

Bar & Club / Food Store



写真: 2016年4月1日撮影。毎月10日発行。〒103-8391 東京都中央区新富町一丁目1番1号 株式会社 商店建築 編集局 TEL: 03-5561-6000



1. ヴォージュ広場に面した「Sweet Inn」の客室。長期滞在客を狙う 2. パリ都心部に位置する「Lobby Sweet Inn」。Sweet Innの宿泊客にコンシェルジュやビジネスルームの機能を提供する(2点写真提供/Sweet Inn) 3. 「Holiday Inn Paris Gare de l'Est(ホリデイ・インパリ東駅)」の色鮮やかなターコイズブルーを基調にした客室(写真提供/Holiday Inn Paris Gare de l'Est)

「ジップセッター」の関心を引きつけるホテル開発戦略

浦田 薫(デザイナーナリスト)

今 話題のAirbnbは、世界190カ国以上に200万戸以上のアパートから一軒家、古城、ヴィラまで、一泊からの宿泊を可能にしている。地元の人々の生活を体感できる宿泊システムを提供し、昨今の旅行や出張のあり方を画期的に革新させた。だが、その上を目指す企業が誕生した。

ホテルとレンタルアパートのプラス面を融合

その企業は、2015年12月に創業したSweet Inn(スウィート・イン)だ。パリ、バルセロナ、エルサレム、ブリュッセル、テルアビブ、ローマ、リスボンの7都市の最も象徴的な区域に現在、アパートを改装した宿泊施設を100軒ほど持つ。

特徴は、ホテルとレンタルアパートの強みを融合させた点にある。ホテルの行き届いた、気ままに甘やかしてくれるサービスと、地元の雰囲気や満喫できる好ロケーションのアパート空間が売り。両者の「いいとこ取り」というわけだ。予約を受けた担当

者が、顧客のコンシェルジュとして滞在中に、フェイス・トゥ・フェイスのホスピタリティーで対応してくれる。

都心部には、現地スタッフが常駐するロビー・スウィート・インという施設があり、荷物の預かりやビジネスセンターとして機能する。一泊120～1500ユーロ(客室面積15㎡～300㎡)という価格帯であり、パリ市で提供する平均面積は60㎡なので、同等料金のホテルと比較すると3倍以上の面積が確保できる。すべてのアパートは、地元デザイナーが空間デザインを手掛けている。それぞれオリジナルの内装だ。

宿泊料金には、現地情報入手のためのオリジナルアプリケーション、コーヒーマシン、アメニティー、寝具やタオルなどが含まれる。更に、有料オプションで、空港への送迎、ドライバーの手配、ルームクリーニング、地元スマートフォンのレンタル、特典付きレストラン予約バスなども依頼することが可能。宿泊客が現地の言語で会話できるよう、「French in a minute(1分間で覚えるフラン

ス語)」という手のひらサイズの各言語のリーフレットも用意している。心配りのコミュニケーションツールだ。「この近所で、最もおいしいクロワッサンが日曜日に買えるパン屋は?」「観光ブックに掲載されていないローカルなレストランは?」という、ピンポイントな質問にもコンシェルジュが気持ち良く対応してくれる。

「現代人は、旅や出張が日常生活になっています。シックなノマド精神にハイな快楽を持ち合わせる人々をジップセッター(ジブシーとジェットセットを組み合わせた造語)と呼びます。彼らは、そこでしか味わえない、アートでラグジュアリーな感動を求める傾向にあります」と語る創業者のポール・ベネヌ氏のビジネスモデルは、2018年に向けて、更に都市部へと展開していく予定だ。

ホテルチェーンの客室デザイン戦略

こうした価値観は、ホテルチェーンにおいても同様に求められている。欧州の交差点であるパリ東駅の真向かいに、営業を続け

ながら18カ月間の改修工事を終えた「ホリデイ・インパリ東駅」。設計を担当したのは、パリに事務所を構える建築家のアクセル・ショネル氏とインテリア・デザイナーのソフィア・ヴァルナギ氏。彼らに与えられた課題は、ニュー・ジェネレーションの客層に対応すること。国内のビジネス利用者は、平均して1.5泊、海外からの訪問者は2.5泊と短いので、ビジネスホテルの価格とサービスがどう対応していくかは難しいところだ。顧客を定着させることを狙い、グループが掲げる「Sprit of Spring(春めいたエスプリ)」をコンセプトに、全207室がサフラン、ターコイズ、ライラック、ウルトラマリンの4色で、明るい空間をデザインした。従来の伝統的な重厚感ある空間を一新したことで、「サフラン色の部屋を予約したい」という顧客の率直な要望が相次いでいるという。

こうしたターゲットを絞った宿泊施設が、パリでも今後ますます求められていきそうだ。ターゲットを絞ることで、より宿泊客のニーズにフィットした体感的な満足を提供していくことができるだろう。